

○市重文 ちくりんじえんぎえじく 竹林寺縁起絵軸

竹林寺縁起絵巻の絵だけを三幅の軸ものに仕立てたものです。絵解きに使用したと考えられます。



竹林寺縁起絵軸

○市重文 竹林寺仏堂

じゅうおうどう ごまどう 十王堂と護摩堂からなります。十王堂は様式等から18世紀前半に再建されたと考えられています。一方の護摩堂は、享保9年(1724)再建されたことが記録されています。



竹林寺十王堂

○市重文 りゅうこ せふすまえ 竹林寺竜虎の間襖絵

竹林寺庫裏の一室にあり、龍の襖絵の右に「東都芳林斎藤原是信」とあり、狩野派の絵師によって17世紀末頃に描かれたことが分かります。



竹林寺護摩堂



竹林寺竜虎の間襖絵

○県重文 もくぞうじぞうぼさつはんかぞう 木造地藏菩薩半跏像

竹林寺の子院の一つ乾蔵坊の本尊でした。胎内の銘から建武5(1338)年の作であることが分かります。



木造地藏菩薩半跏像

石造宝篋印塔



石造七重塔



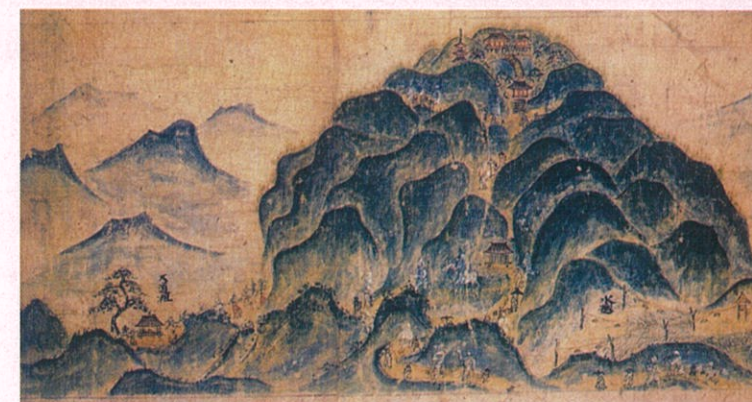
石造六字名号碑

○市重文 竹林寺石造物

ほうきやういんどう ななじゅうのとう ろくじみょうごうひ 竹林寺石塔は、宝篋印塔、七重塔、六字名号碑からなります。宝篋印塔は15世紀前半の作と考えられる優美な石塔です。七重石塔と名号石はその銘から、平賀氏の一族名井光叶が建てたことが知られます。

重要文化財

竹林寺本堂



写本紙本着色竹林寺縁起絵巻(部分)

東広島市教育委員会

## 竹林寺の歴史と概要

竹林寺は、標高 535m の<sup>たかむらやま</sup>篁山の山頂付近に所在する<sup>しんごんしゅう</sup>真言宗御室派に属する寺院で、本尊は千手観音菩薩です。境内の中央に<sup>はすいけ</sup>蓮池を配し、<sup>じょうどしきていえん</sup>浄土式庭園としています。寺蔵の<sup>ちくりんじえん</sup>竹林寺縁起絵巻によれば、天平 2 (730) 年、僧行基によって<sup>ざくらざん</sup>桜山花王寺として創建されました。その後、弘仁 11 (820) 年、小野<sup>おのの</sup>篁の奏上により<sup>たかむらざん</sup>勅願寺となり、天曆 5 (951) 年、小野篁との由緒から<sup>たかむらざん</sup>篁山竹林寺と改めたとされます。往時は七堂伽藍を備え、<sup>かんぞうぼう</sup>乾蔵坊、<sup>おののし</sup>小野寺、<sup>なんこうぼう</sup>南光坊、<sup>まんがんじ</sup>満願寺、<sup>かんろうじ</sup>甘露寺などの末寺があったと伝えられます。<sup>おうえん</sup>応安 4 (1371) 年、<sup>いながわりようしゆん</sup>今川了俊は、小野篁ゆかりの大なる山寺があることを記しています。

南北朝時代以降、この地域を支配した安芸国の有力国衆である平賀氏の庇護のもと竹林寺はさらに発展を遂げます。平賀氏は出羽国平鹿郡を名字の地とする<sup>とうごくごけにん</sup>東国御家人で、鎌倉時代に竹林寺のある<sup>たかやのほう</sup>入野郷の西隣高屋保の地頭として来住しました。南北朝時代には入野郷を領地に加え、室町・戦国時代には安芸国有数の領主に成長します。

永正 8 (1511) 年、大内氏に従って上洛していた平賀弘保は、船岡山の合戦で戦功を挙げ、帰国します。この年竹林寺本堂が建立されたことが屋根の部材の墨書から明らかになっています。しかし、この時点では屋根と床があるだけで吹き放ちの状態でした。これは、その後戦乱が激しくなることから、造営の余裕がなかったことが推測されています。その後、戦乱が一段落したことから、<sup>てんぶん</sup>天文 12 (1543) 年に<sup>ずし</sup>厨子が造られ、<sup>しゅみだん</sup>天文 14 (1545) 年に<sup>れんじらん</sup>須弥壇が組まれました。正面の<sup>ま</sup>連子欄間に<sup>ま</sup>天文 17 (1548) 年の墨書銘があることから、このころ完成したものと考えられています。

その後、護摩堂や三重塔などが建てられ、現在のような景観が完成しました。竹林寺には、今なお数多くの建造物や文化財が残り、往時の様子を伝えています。

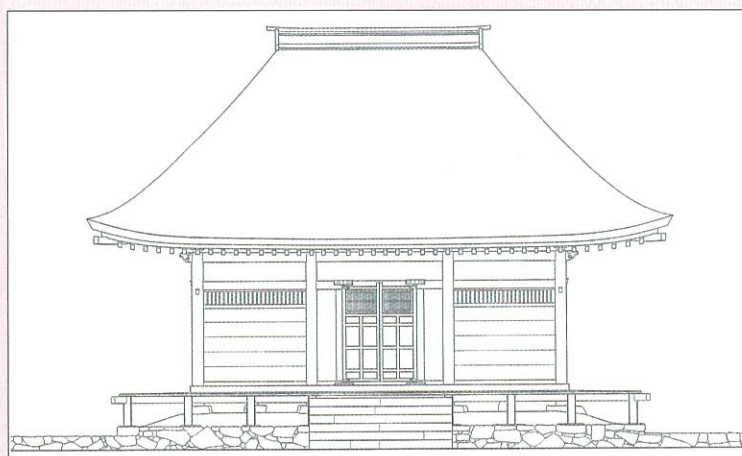
なお、竹林寺三重塔は、現在東京都文京区に移築され、国の登録有形文化財に登録されています。

## 重要文化財 竹林寺本堂

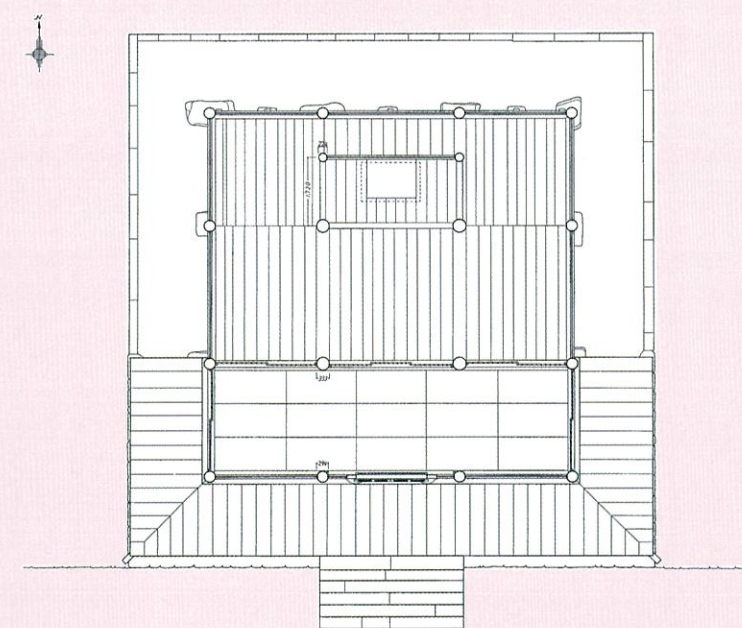
竹林寺本堂は、<sup>けたゆき</sup>桁行 3 間、<sup>はりま</sup>梁間 3 間の規模の大型の密教本堂で、正面と両側面前半部の三方に<sup>きりめえん</sup>切目縁を廻らせ、正面



竹林寺本堂（南東から）



竹林寺本堂立面図

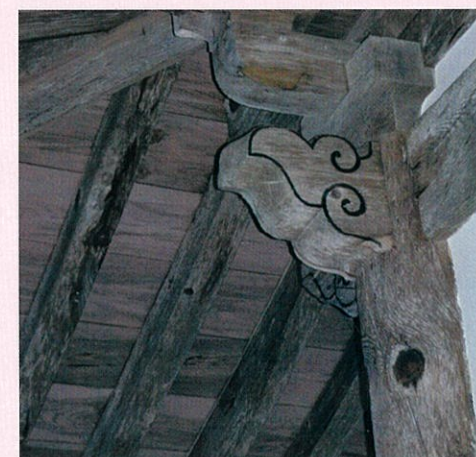


竹林寺本堂平面図

に 6 級の石段を付けています。内部は<sup>もやぼしら</sup>身舎柱を立て、正面 1 間側を<sup>げじん</sup>外陣、後方 2 間分を<sup>ないじん</sup>内陣としています。来迎柱と来迎<sup>らいごうぼしら</sup>壁を立て、その前に<sup>らいごうぼしら</sup>須弥壇と厨子を置いています。天井は、<sup>もやしてんぼしらない</sup>身舎四天柱内を<sup>かがてんじょう</sup>鏡天井とし、そのほかを<sup>けしやうや</sup>化粧屋根裏としています。

屋根は、<sup>よせむねづくり</sup>寄棟造、<sup>こけらぶ</sup>柿葺きで、棟に箱棟を載せています。組物は、<sup>でみつとぐみ</sup>出三斗組とし、<sup>くりがた</sup>繰形付きの<sup>さねひじき</sup>実肘木を入れています。

附けたりの厨子は、桁行 1 間、梁間 1 間、入母屋造、妻入で須弥壇上に載りますが、床は張らず仏像は床から直接立っています。屋根は板葺きとしており、<sup>のりこかべ</sup>内法小壁に平賀家の家紋「<sup>うめ</sup>梅ヶ唐花」を打っています。



竹林寺本堂木鼻

## その他の文化財

### ◎県重文 紙本着色竹林寺縁起絵巻（2巻）

この縁起絵巻は、室町時代に製作されたと推定されるもので、漢文調の詞書と絵を交互に描いた巻物です。竹林寺の開基から小野篁の活躍までが描かれます。

### ○市重文 写本紙本着色竹林寺縁起絵巻

県重文の縁起絵巻の写本です。



写本紙本着色竹林寺縁起絵巻（部分）